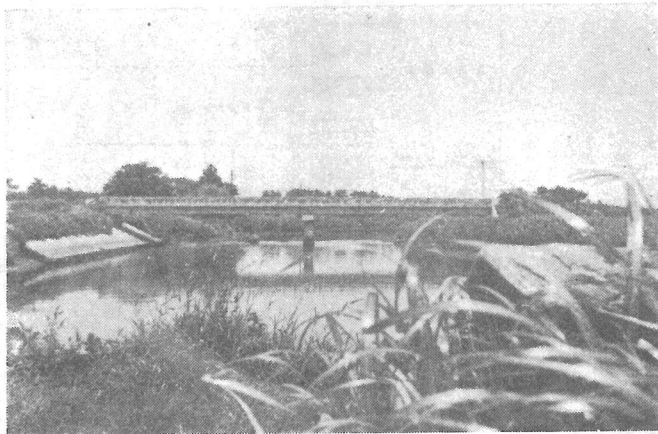


# ふるりの散歩路 (その四)

## 木戸橋から栗山河口へ



この辺りは甲高いよしきりの啼声が繁く、田園情緒がいっぱいです。

(木戸堰から、木戸橋を望む)

七月には山百合と夏の味覚である西瓜を添えた中台から桜前古墳群等の案内をしました。八月は何と言っても水の季節です。栗山河川沿いに木戸橋から栗山川河口海岸線のコースを紹介しましょう。

横芝駅から木戸浜經由八日市場行のバスに乗りますとバスは橋場四角交差点を右に曲り、街並、松林、田、畑、村落と暫らくは隣町の風景の中

見ますと、「何せずーっと昔からあっただべよ」というだけで是と言った説明は聞けませんでした。

橋の上から眺める栗山河川は上流は稲畳の中をゆるやかに堤が区切りをつけ、それに木立や人家が遠く近く点在して風致を添えて、丁度浮世絵の五十三次のように美しい。橋の上の道路は片貝萩園線という県道で橋を渡ると横芝町屋形三本松ですが此の辺からの風景はまた変わった趣を味わせてくれます。

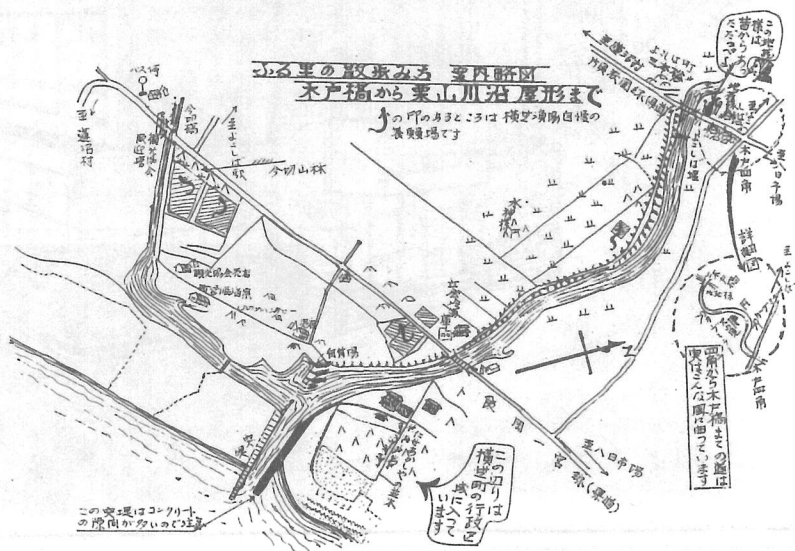
橋の下流約百メートルのところに見えるのが木戸堰です。此処から約三百メートルは兩岸とも光町地積です。元の栗山河は相当曲りくねりながら横芝町と光町の行政区域を分けて流れていたのですが、大正から昭和にかけて現在の様に比較的直な流れに改修されたのです。そのため川を挟んで両町の行政区劃が入込んでいるのです。

木戸橋を渡りましたならば堤伝いに下りましょう。いま橋の上から眺めた木戸堰の辺りからは葦群(あしむら)が対岸を埋めてよしきりの啼声が田園情調を味わせてくれます。堤路は夏草が生い繁り時には脊丈以上のものもありますが路徑はちゃんと付いていますから勇氣を出して歩きましよう。時折赤と黄の美しい鱒を持った蟹がチョコチョコと足下で出迎えてくれます。この蟹は俗に浅間(せんげん)蟹というそうですが一匹位は

土産に捉えて見ていいでしょう。但し上手に捉えまないと釣れますから充分に気を付けて下さい。こうした堤路が約一キロ程続き前方に橋が見え、その向うには海が見え始めます。その橋が屋形橋で道路は県道飯岡一宮線です。

県道に出たならばすぐ橋を渡り堤伝いに百メートル程歩きますと松林の中を通じる細路があり、程なくアカシヤのトンネル並木になり、吹き抜ける汐風が素的す。この

アカシヤは棘無アカシヤと俗に呼ぶ品種で県林業事務所が砂防用に植付けたものですが大分棘が出ています。実際は偽アカシヤの一種でしょう。ついタバコをふくしたくなるかもしれませんが此の辺りは県の管理で火気厳禁ですから御注意下さい。此々まで来ると自由散策を少し案内に従って自由散策を楽しみます。砂丘から海岸伝いに先程の堤の先に出られます。九十九里の波濤が夏の海の味いを満喫させてくれるでしょう。



川口対岸にブルドーザー等の築港工事が進んでいるのが望見出来る筈ですが、これは横芝町を中心とする隣接町村の共同事業です。その辺に曳上げたならば再び橋に戻り対岸の堤を下ります。堤の下に見えるプールの様な池は横芝漁協御自慢の養鰻場です。堤路が船着場の近くになりましたらば人家の在る方に降りて下さい。前方の松林の中に切通しの様な道が見えます。そして色とりどりの海水着がチラホラすると思えます。その辺が横芝屋形海水浴場の中心地になり左右には別荘や臨時の売店があつて賑やかです。町営の東雲(しのめ)パンガローや臨海寮も此の道路沿です。此々まで歩いて来ますと、そろそろ疲れも出始めます。松林が切れる所に商工会の売店がありますから此処で一休みして再び案内図を拡げて下さい。まだ残っているコースは養鰻場の本所、今切の松林等です。バスの時刻等を調べて養鰻場の見学を行ない今切の松林や観光協会の歓迎塔に別れを告げてバス停留場に向いましょう。(今切の松林は明治維新の際勳皇の志士が謀議を凝らした所といわれていますが、草深く立入りはお奨め出来ません)

